

令和元年 7 月 21 日

研修会報告

文責：真山

日 時：令和元年 7 月 20 日（土）14：00～16：45

会 場：東北大学医学部 1 号館第 1 講義室

テーマ：宮臨技学術部生物化学分析部門・遺伝子染色体部門合同研修会
「肝炎と遺伝子検査」

内 容：講演 1 「遺伝子の基礎～核酸の基礎知識～」

講師：国立病院機構仙台医療センター臨床検査科 真山 晃史技師

講演 2 「ウイルス性肝炎と遺伝子検査」

講師：ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 大瀬 墨氏

講演 3 「肝炎の診断・治療と遺伝子検査」

講師：国立病院機構仙台医療センター消化器内科部長 真野 浩先生

生涯教育点数：20 点

参加者：会員 42 名、非会員 1 名、賛助会員 6 名、講師（医師）1 名 計 50 名

今回は学術部生物化学分析部門と遺伝子・染色体部門の初となる合同研修会を開催した。テーマを「肝炎」に絞り、肝炎の診断・治療と遺伝子検査について学ぶ機会とした。

講演 1 では遺伝子・染色体部門の真山が「遺伝子の基礎」と題して、遺伝子を理解する上で必須である分子生物学・核酸について講演した。DNA の構造や塩基配列、検体の取り扱いや肝炎の遺伝子検査で用いられる各種解析法の原理について説明し、会員が肝炎の遺伝子検査について理解を深めてもらえるよう努めた。

講演 2 ではロシュ・ダイアグノスティックス株式会社に「ウイルス性肝炎と遺伝子検査」について講演してもらった。ウイルス性肝炎の歴史や HBV・HCV の構造とその遺伝子検査、肝炎治療について講演していただき、HCV は治療、HBV は制御の時代であることを認識することができた。

講演 3 では「肝炎の診断・治療と遺伝子検査」という題で国立病院機構仙台医療センター消化器内科部長の真野浩先生に講演をお願いした。実際の臨床における肝炎の診断・治療について、既存の免疫血清検査だけでなく遺伝子検査（HBV-DNA 定量など）についても臨床データを提示していただきながら講演してもらった。肝炎の診断・治療の実際について学ぶことができ、参加者によって非常に有意義な内容であったと思われる。

初めての生物化学分析部門と遺伝子・染色体部門の合同研修会であったが、遺伝子・染色体検査は幅広い領域にまたがる検査であること、そして生化学検査の重要性についても認識を深めることができた良い機会となった。今後も宮臨技の会員にとって有意義な研修会を開催していきたい。